

私たちの「ふつう」は世界では「変」だった

～世界との比較で日本を考える～

未来をあきらめないために



2025 年 3 月 2 日 (日)

13:30～15:30 (開場 13:15)

北多摩西教育会館 3F 大会議室

お話 : 本田由紀 さん

【東京大学大学院教育学研究科教授／日本学術会議連携会員】

専門は教育社会学。教育・仕事・家族という 3 つの社会領域間の関係に関する実証研究を主として行う。

主な著書:『若者と仕事』(東京大学出版会)、『多元化する「能力」と日本社会』(NTT出版)、『「家庭教育」の隘路』(勁草書房)、『軋む社会』(河出文庫)、『教育の職業的意義』(ちくま新書)、『学校の「空気」』(岩波書店)、『社会を結びなおす』(岩波ブックレット)、『もじれる社会』(ちくま新書)、『教育は何を評価してきたのか』(岩波新書)、『「日本」ってどんな国?』(ちくまプリマー新書)など

23 年度の小中学生の不登校は過去最多の 34 万 6482 人。小中高生の自殺は 513 人 (過去最多の 22 年の 514 人に次ぐ)。学校が認知したいじめは 73 万 2568 件。

中学受験が過熱する一方で 9 人に一人の子どもが貧困。15 歳以上で引きこもり状態にある人は推計 146 万人 (22 年調査)。

23 年度の公立小学校教員採用試験の平均倍率は過去最低の 2.3 倍。(東京は 1.2 倍) 日本の社会は、教育は「そうとうやばい」かも。

この状況を豊富なデータに基づき、国際比較を交えて解明していただき、未来への希望を考えましょう。

- 1 子どもと青年の状況
- 2 なぜそのような状況になっているのか
- 3 日本と世界の違い
- 4 私たちはどうすればいいか

主催 三多摩子育て・教育問題連絡会
子どもと教育を守る三多摩の会
国分寺市光町 1-40-12 北多摩西教育会館
TEL/FAX 042-842-3043 Mail hannoki3223@yahoo.co.jp

資料代 500 円
(大学生以下無料)
予約不要

